秩父鉄道の武州荒木駅から見沼代用水沿いの田んぼを２時間かけて歩き、古代蓮の里の展望台のクーラーの効いたところで一休み。帰りは「さきたま古墳公園」経由で行田市駅まで西日に照らされながら歩きました。この場所は、秀吉、光成も落とせなかった「忍城」の城域の場所で湿地が広がり古墳群のヨシ原ではオオヨシキリが囀っていました。（粕谷）

紅葉台 新聞

第９７号
２０２３年
９月３０日
発行人：関谷　孝

読者からの戦争体験記

紅葉台新聞９０号で「八王子の戦争を語り継ぐ」を企画しました。今回は「いのはなトンネル列車空襲」でしたが、その記事を読んだ読者の方から、自分のご家族の戦争体験を語ってくださった方がいました。親が子供へ語り継いだ記憶はいつまでも心に鮮明に残っています。戦争の悲惨さを語ることは、戦争をしないことを改めて誓うことになるのだと思いました。毎年繰り返される戦争の語りは、それが途絶えてしまったらまた同じ道を歩むのが人間の愚かさではないでしょうか。ご本人の了承を得て、皆様にも読者からの投稿記事を掲載します。これからも新聞を通して双方向で作る新聞にしていきたいと考えます。ご協力に感謝いたします！

下口　可奈子さん

私の母が広島出身で、爆心地から 3km 離れた自宅の室内にいましたが、被爆者です(当時 3 歳)。私の祖母は外で洗濯物を干していて被爆し、昭和 20 年 12 月に亡くなりました。

私が子供の頃毎年広島に帰省して、灯籠流しや平和記念公園に行っていました。母は特に健康には何の影響もありませんが、広島出身である事で辛い思いをした事もあるようで、仲の良い人以外には言わないようにしていた時期もあったそうです。母の父は軍の仕事をしていたので、戦時中は軍のお偉方が食事をしに来たりしていたようで、食べる物がないご時世にも一斗缶のお砂糖や小麦粉などが家にあり、食べる物に困った事はなかったと言っていました。祖父は原爆の日の朝、ゲートルを巻いて出勤しようとしていましたが、体調がすぐれないと言って、その日は仕事を休む事にしたため、原爆の被害には遭わなかったそうです(勤務地は原爆ドームのすぐそば)。母親が被爆半年後に亡くなったので、父親があの日出勤していたら、母達姉妹は両親を亡くす事になっていたと思うとぞっとします。

原爆で火傷をして熱い、痛い、と言いながら、実家近くの小川で倒れたり冷やそうとしたりしていた方々のために祖母が赤チンを小川に流してあげたりしていたのを覚えていると伯母や母から聞きました。
母の姉(当時 6 歳)は、登校したものの空襲警報で帰宅するよう言われ、下校途中、B29 が見えたので、材木置き場に逃げ込み材木の陰で直接の被爆を避ける事ができたと言っていました。
佐賀市出身の私の亡父は当時小学生だったので、戦争には行きませんでしたが、父の兄達は戦地に行き全員無事に戻ってきたので、父に色々な話をしてくれたそうです。すぐ上の伯父は志願して特攻隊にいましたが、ある日 2 つのグループに分けられ、1 つのグループはその翌日には出撃し、伯父はもう 1 つのグループで、出撃せずそのまま終戦を迎えたそうです。私のハワイでの結婚式の時、参列してくれた伯父を真珠湾に連れて行ったのですが、色々な思いが込み上げたのか涙していました。のちに病気で亡くなる直前まで、ハワイに連れて行ってもらった事を嬉しそうに話していたと従兄から聞きました。

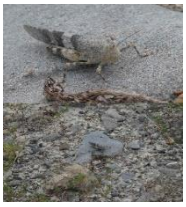
西川　信男さん

今日は終戦記念日ですね。（８月１５日）

私の父は立川市出身で武蔵村山市にあった東京陸軍少年飛行兵学校を出た少年飛行兵で、特攻隊の生き残りです。
知覧特攻平和会館に展示されている「子犬を抱く少年兵」という写真があります。出撃２時間前の朗らかな様子の写真です。この少年兵(17～18 歳)は陸軍特別攻撃隊「第七十二振武隊」で、父が小隊長をしていた部隊でした。
父は彼らと昭和 20 年 4 月な朝鮮の平壌から九州の知覧や万世基地に移動中に、米軍機(P51)に襲撃され被弾不時着しました。顔面と手に大火傷を負いましたが入院して生き残りました。
部下は入院中に全員特攻で沖縄にむかい戦死したそうです。その後、父は平壌の基地に戻り終戦となりました。

粕谷和夫の観察日記

ベニシジミ
八王子高月水田で毎月定期カウントを行っています。この写真は、８月８日、休耕田でヤナギハナガサの花で吸蜜しようとしているベニシジミです。口吻（ストロー）がゼンマイのように丸くなっていて、未だ吸蜜状態になっていません。



カワラバッタ８月８日、くそ暑い多摩川の川原を歩いていると、鮮やかな青色のバッタが足元から飛び立ち、どこかへ消えてしまいました。川原の忍者カワラバッタです。久しぶりに出会いました。止まると小石の色そっくりの灰色、河原の石に溶け込む擬態の王者です。河川改修などにより生息環境が減少し、レッドリストにあげられている珍しいバッタに出会えてうれしかったです。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」の HP に公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。